

年頭のごあいさつ

New Year's greetings



地域経済の自立にむけて

只見町長 目黒 吉久

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、つつがなく輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

この機会に、日頃町政にお寄せいただいておりますご支援とご協力に心から感謝申し上げます。

さて本町は今年、町制施行50周年を迎えます。この節目の年に町長として町民の皆様の負託を謙虚に受け止め、町政の執行に全力を挙げて取り組んでいきたいと思っております。

私は町民の皆様とともに「人・集落・町・自然が輝く」自立と助けあいの心に満ちた町づくりを目指し、その目標は、まず「若者が定住し、子どもを生み育て、やがてその子どもたちが只見に住み続けられるように」、そして「都市部の人たちが、一度は只見に行ってみたい、そしてまた行ってみたいと思われるような美しい自然と景観を守りながら、町民が誇りを持って暮らしている町をつくる」ことで

す。この目標を達成するために、次の3つの政策を柱として取り組みます。

第一は、「暮らしの成り立つ産業の確立」です。そのために本町の豊かな地域資源を最大限に活用し農・林・水産業の振興を図ります。そして本町の雄大な自然を活かした滞在型交流・観光事業の推進に力を入れていきます。

第二は、「生涯安心して暮らせる町づくり」です。集落集会所を利用して全町的な健康づくり運動の推進、お年寄りにとって安心して暮らせる福祉施設の整備等を進めていきたいと思っております。

第三は、「町を誇りに思う子どもへの教育と、人づくり」です。年次計画により教育施設の整備を図っていきますが、さらに、本町の自然と郷土の理解を深める学習を充実させたいと思います。また、その学習成果を町内にとどめることなく、都会の人たちに伝える機会をつくっていききたいと思っております。

ところで昨年、米国に端を発した金融危機は世界同時不況となり、又原油価格の高騰は私達の生活を直撃しました。そして、ヒト、モノ、カネが凄まじいスピードで世界を駆けめぐりようになり、私たちの生活のすみずみまで、世界経済に組み込まれていると実感した年でもありました。町内では、公共事業の縮小と農産物価格の低迷は、雇用不安と社会不安を引き起こしました。

このような中で本町は、「第2回世界ブナサミット」を開催し、国内外に只見の自然の素晴らしさを伝えました。また「河井継之助シンポジウム」を開催し、戊辰戦争から140年がたった今、改めて「義」の心について世に問い直しました。

将来の本町を担っていく子どもたちの活躍は私たちに感動を与えてくれました。只見高校野球部の夏の大会ベスト16、只見中学校野球部の新人戦県大会優勝は、雪国のハンデを乗り越えたいすばらしいものでした。只見

中学校デイベート部の全国大会ベスト16の成績も、全国の強豪中学校と知の格闘をして勝ち得た、意義のあるものでした。

大人も負けてはいませんでした。消防ポンプ操法小型ポンプの部郡大会優勝は、実に22年ぶりの快挙でした。本町は小規模自治体ですが、これらの昨年の実績を見ますと、一人ひとりの持てる力を遺憾なく発揮した年と思えます。

私の町政に望む基本姿勢は、「自立」「挑戦」「交流（もてなし）」そして「前進」です。本町の立地条件は厳しくもありませんが、その反面豊かな自然が残っており、たくさんの方が秘められています。

町民一人ひとりが将来に夢と希望を抱けるように、特に地域経済の自立にむけて、皆様と共にその実現に全力を注いでいきたいと思えます。平成21年が町民の皆様にとって素晴らしい一年となることを心よりお祈り申し上げます。



住民福祉の向上を

只見町議会議長 齋藤 邦夫

新年明けましておめでとうございます。

只見町議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆様には、つつがなく新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと国内外共、正に激動と変革の年でありました。米国のサブプライムローン問題に端を發した金融危機は、国際経済に大きな衝撃を与え、深刻な経済不況をもたらし、企業の倒産や失業など、国民生活に大きな不安を与えました。また、中国四川省や宮城内陸地震、更には地球温暖化に伴う自然災害など、自然界の怖さと、環境保全の重要性を教示してくれました。

国においては、年金記録の問題をはじめとして、地域医療の確保、後期高齢者医療制度の導入、原油とガソリン価格の乱高下、中国ギョーザに端を發した食品安全の問題、更には、国の緊急不況対策など、暮らしや健康に関わる問題が頻発しました。

本町においては、町政の主宰者である町長選挙が実施され、小沼町政から日黒町政に引き継がれ、議会議員選挙では八名の新人議員が選出され、若さと活力の溢れる新しい視点での町政運営が期待されています。

本町の産業活動は、幸い天候に恵まれ、米・トマト・花きなど、主要作物の作柄は比較的良好でありましたが、価格の低迷が続き農業経営は厳しく、商工観光業も公共事業の大幅削減など、不況の影響を受けて購買力の低下、観光客の減少など、厳しい経営を余儀なくされました。

一方、明るい話題として、海外参加者などで盛会に開催された第二回世界ブナサミット、河井記念館のリニューアル・オープン、特に、只見高校と只見中学校野球部の活躍は、町民に大きな感動を与えてくれました。そして、年末には四人の日本人研究者にノーベル賞が授与され、国民に誇りと自信を与えました。

さて、議会活動ですが、只見町振興計画に基づき、道路整備、

携帯電話鉄塔建設、保育所整備、集落排水事業の推進、給水施設整備、明和小学校改築など、住民と行政が協働する町づくり対策を始め、保健、医療、福祉連携によるサービスの充実など、町民生活に密着した施策や事業

に対して、議会は投資効果など、議案審議を通じて、その役割を果たすべく努力して参りました。

さて、平成二十一年度は、町制施行五十周年の記念すべき年ですが、国の経済不況対策を受けて町民生活を守るため、積極的な町政運営が待たれるところです。また、将来を展望した地

場資源活用型産業の確立による地域経済の自立や、少子高齢化に起因する様々な課題に、きめ細かな対策が求められております。特に、若者が定住できる働き場の創設・子育て不安の解消・教育環境の整備、更には、高齢者が安心して暮らせる環境づくりが急務と考えます。

また、地域経済活動の基盤となる国道二八九号など、交通網の整備促進及び自然環境の保全

と利活用など、将来を見据えた対応に努力して参りたいと考えます。

町議会は、地方分権型社会を迎え、益々市町村の自主性が強く求められ、意思決定機関として、その責任と役割が大きくなりました。従って、長と議会は、二元代表制の趣旨に沿った議会運営に努めると共に、町民の負託に応えて住民福祉の向上に努力して参る所存でございますので、町民皆様のご指導・ご支援をお願い申し上げます。

結びに、平成二十一年が町民の皆様にとりまして、すばらしい年になりますようお祈り申し上げます。

平成二十一年一月元旦